



2010-11-26 JAXA APG公募型研究報告会

## 高マッハ数壁乱流における摩擦抵抗の低減 に関する基礎的研究

慶應義塾大学理工学部機械工学科 深潟 康二







Figure 15. Pressure Distribution Comparison, Airfoils 4 and 5 (NASA Report, 1979)



(Fukagata et al., 2006)





## ・ 理論/数値シミュレーション

- フィードバック制御
  - 流れ場の全情報を用いた最適制御
     では再層流化も(Bewley et al., 2001)
  - 現実的なセンサ情報を用いた制御では 12%抵抗低減(Fukagata & Kasagi, 2004)
- プレデターミンド制御
  - センサを用いず、大きな抵抗低減効果 (Min et al., 2006; Mamori et al., 2010), 再層流化も(Nakanishi et al., 2010)

 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・<

(吉野ら, 機論, 2006) - 約6%抵抗低減

風洞実験

- フィードバック制御 (吉野ら, 機論, 2006; Yoshino et al., 2008)

従来の摩擦抵抗低減のアクティブ制御に関する研究は 非圧縮流れが対象 →高マッハ数での効果は未知







(Mamori, 2009)



- 壁乱流における摩擦抵抗の原因=壁面近傍のレイノルズせん断応力
  - FIK恒等式(Fukagata et al., 2002) → これを定量的に説明
  - - 圧縮性FIK恒等式(Gomez et al., 2009) → マッハ数M = 2のチャネル 流でも、壁面近傍のレイノルズせん断応力が摩擦抵抗の主因

# →基本的には、非圧縮壁乱流に対して提案された摩擦抵抗低減手法が M = 2の壁乱流にも適用できそう・・・

- 問題点
  - 実際M=2の壁乱流に制御を加えた場合に何が起こるか不明
  - 外部流(=空間発達境界層), さらに逆圧力勾配下での制御効果は非 圧縮の場合でも不明
  - 非圧縮壁乱流との違いを利用して、高マッハ数壁乱流により適した制御則を提案できないか?







(JAXA HPより)

環境・エネルギー資源に優しい静粛超音速機の実現
 に寄与



2010年度

① E縮性チャネル流DNS コードの開発および検証 ②非圧縮空間発達乱流境界層制御のDNS

2011年度

①圧縮性空間発達乱流境界層DNS コードの開発および検証

②非圧縮壁乱流の摩擦抵抗低減のために開発された制御則を適用した M = 2の空間発達乱流境界層のDNSおよび制御効果における相違 点の抽出

2012年度

高マッハ数壁乱流に適した制御則の開発およびDNSを用いた制御効 果の評価



高マッハ数壁乱流における摩擦抵抗低減のための基盤技術 の確立へ





# 非圧縮空間発達乱流境界層における一様吹出し /吸込み制御のDNS

## Kametani & Fukagata (EFMC-8, Bad Reichenhall, Germany, September 2010)より



## □ FIK identity for spatially developing boundary layer.

FIK identity (Fukagata et al., 2002)

I. Boundary Layer  
Thickness, 
$$c^{\delta}$$
  

$$c_{f} = \frac{4\left(1-\delta_{d}^{*}\right)}{Re_{\delta}} + 2\int_{0}^{1} 2\left(1-y^{*}\right)\left(-\overline{u^{*'}v^{*'}}\right)dy^{*} + 2\int_{0}^{1} 2\left(1-y^{*}\right)\left(-U^{*}V^{*}\right)dy^{*}$$
IV. Spatial Development,  $c^{D}$   

$$-2\int_{0}^{1} (1-y^{*})^{2}\left(\frac{\partial U^{*}U^{*}}{\partial x^{*}} + \frac{\partial \overline{u^{*'}u^{*'}}}{\partial x^{*}} - \frac{1}{Re_{\delta}}\frac{\partial^{2}U^{*}}{\partial x^{*2}}\right)dy^{*}$$

f: Spatial average value in z direction

 $\delta_{d}$ : Displacement thickness

\* : Non-dimenstionalized by 99% BL thickness  $\delta_0$  & Streamwise velocity  $U_{\infty}$ 



## Direct Numerical Simulation



### Governing Equations

- Continuity equation & Navier-Stokes equation
- **DNS Code:** Based on Fukagata & Kasagi(JCP, 2002), Fukagata et al. (Phys. Fluids, 2006)
  - > Creating boundary layer: Rescaling; using Lagrange interpolation (linear), Lund et al. (1996)







# Flow visualization











DNS with uniform blowing (UB) or suction (US) was performed aiming at skin-friction drag reduction.

### Effect of UB & US on skin friction drag

Control Type	Skin friction drag	Viscous shear stress	Reynolds Shear Stress
Uniform Blowing	$\checkmark$		
Uniform Suction			$\checkmark$

□ Mechanism of drag reduction or enhancement by using FIK identity.

- Spatial development term, c<sup>D</sup>, and Reynolds shear stress term, c<sup>T</sup> are dominant for skin friction drag. Mean convection term, c<sup>C</sup>, reduces skin friction drag.
  - UB: Mean convection term works as larger drag reduction factor.
  - <u>US: Mean convection term changes into drag enhancement</u> <u>factor.</u>